

【3月の気象】

3月は、「啓蟄」「東風」など、春の訪れを思わせる季語が多くありますが、「春炬燵」など、冬の寒さを思わせる季語もあります。この時期は、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過して天気が周期的に変化することが多くなります。高気圧に覆われて晴れる日や低気圧の通過で雨をもたらす日、冬型の気圧配置となり冬を思わせる寒さとなる日もあります。3月に松山で最低気温が一番低かった記録は1893年の氷点下6.3℃です。さすがに温暖化もあり近年ではこれほどの低温はありませんが、2000年代に入っても、氷点下の気温を観測していることがあります。このため、晩霜による農作物への被害が懸念される時期でもあります。例年この時期に入る前には、気象台と農業関係機関の間では農作物の育成情報を考慮して、霜注意報の発表時期を決めています。気象台の発表する霜注意報には留意願います。

また、この時期に農業に影響する気象や天候などは、表1の通りとなります。参考にしてください。

表1 農業に影響するこの時期の気象と天候

現象の種類	状況や要因	注意すべき事項	着目してほしい情報
晩霜	高気圧に覆われた朝の放射冷却	農作物の管理	霜注意報
乾燥	高気圧に覆われて空気が乾燥	火の取り扱い	乾燥注意報
強風	低気圧の発達などにより 気圧の傾きが増大	農業施設の管理 火の取り扱い	気象情報 強風注意報、暴風警報
落雷 竜巻・突風 降ひょう	寒冷前線近傍、上空寒気により大気の状態が不安定	農作物の管理 安全な場所へ避難	気象情報、雷注意報 レーダー・ナウキャスト 竜巻注意情報

【気象用語】「2023年の世界と日本・松山の気温」について

先日、気象庁から2023年の世界の平均気温が基準値（1991～2020年の平均値）より0.54℃高くなったと発表され、統計を開始した1891年以降、最も高い気温となりました。日本でも2023年の平均気温は平年（1991年～2020年の平均）より1.29℃高く、1890年の統計開始以来、最も高い気温となりました。100年で1.35度、気温が上がっていることとなります。松山でも、2023年の平均気温は17.8℃を記録し1890年の統計開始以来、最も高い気温となり、100年で1.9℃、気温が上がっていることとなります。

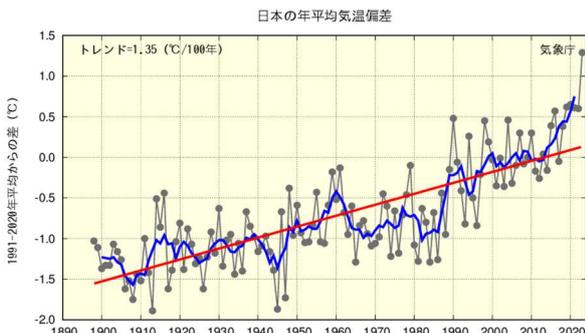
2023年が世界的にこれほどの高温となったのは、地球温暖化による気温の上昇とエルニーニョ現象による海水温の上昇が原因と考えられます。日本では地球温暖化の影響のほか、偏西風が日本の北を流れやすく日本の南で高気圧が強かったことで、日本付近に暖かい空気が流れ込みやすかったことがあります。

この高温を受けて、国連の事務総長から「人類が地球を焦がしている」という声明を出したと報道がありました。日本を始め世界で温室効果ガスの排出抑制に取り組んでいますが、すぐには地球温暖化を止めることはできません。2024年は2023年を上回る気温となる可能性もあります。今後も地球温暖化の防止に取り組むとともに、気候変動に対する適応策を考えていかなければならないです。

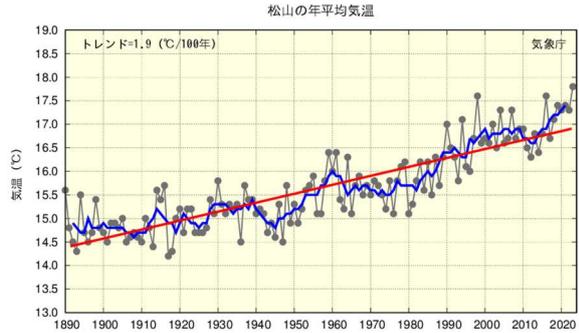
また、松山の真夏日、冬日等の長期変化や愛媛県のアメダスによる短時間強雨の長期変化を松山地方気象台ホームページに掲載しています。こちらも参考にしてください。

○松山地方気象台ホームページ「愛媛県の気候変動」アドレス

[https://www.data.jma.go.jp/matsuyama/tokusei/kikouhendou/ehime\\_kikouhendou.html](https://www.data.jma.go.jp/matsuyama/tokusei/kikouhendou/ehime_kikouhendou.html)



黒線：各年の基準値からの偏差、青線：5年移動平均、赤線：長期変化傾向  
長期変化傾向



黒線：各年の気温、青線：5年移動平均、赤線：長期変化傾向